

**登別は観光客が温泉街
を歩き交うにぎやかな
まち**

「北海道に来たのは、高校の修学旅行以来で登別は初めてです。登別と聞いて、真っ先に浮かんだのは、今の勤務地でもある登別温泉。たくさん観光客が温泉街を歩き交うにぎやかなまちですね」と登別の印象を話す滋賀県守山市職員の大崎さん。今年4月、職員派遣交流で登別市に派遣され、観光振興グループで観光客の入込数調査や、観光客からの問い合わせの対応などの仕事に携わっています。

「守山市では、青少年の健全育成の推進や文化振興に関わる仕事をしていましたが、新たな環境で仕事がしたいと思って、矢先に登別市派遣の話があり、北海道で仕事をする機会はなかなかないと思い、行くことを決めました。最初は不安で仕事も分らないことばかりでしたが、まちや職場の皆さんに助けられ、仕事も生活も楽しく充実した毎日を送っています」と登別に来たきっかけを振り返ります。



▲観光振興グループで意欲的に業務に当たると大崎さん(左)

**観光地登別を盛り上げ
ようという市民の熱い
思いが伝わってきます**

地獄の谷の鬼火火や登別地獄まつりなどのイベントにも関わった大崎さん。市民がイベントに積極的に関わっているのが印象的と言います。

「まちの皆さんからは、自分たちのためではなく、観光地登別を盛り上げようという熱い思いが伝わってきます。派遣期間は来年3月までと短い間ですが、さまざまな方と交流し、知り合いをつくりたいですね。もっと登別市のことを吸収し、経験を守山市で生かしたいと思えます」と今後の意気込みを話してくれました。

来年度は、東京都福生市の職員が登別市に派遣される予定です。



K I R A R I

おお さき じゅん ぺい
大崎純平さん(守山市)

市は、昭和45年に市制施行した市のうち、東京都福生市と滋賀県守山市との3市で『新都市連絡協議会』を結成し、今年市制施行40周年に当たり、より一層の情報交換に努めるため、3市で職員派遣交流を行っています。今年4月から来年3月までの予定で、守山市から登別市に派遣されている大崎純平さんに、登別市の印象などを聞きました。

もっと登別市のことを吸収し、経験を守山市で生かしたい



▲守山市の花『近江妙蓮』 ▲守山市で毎年1月に行われる『勝部の火祭り』



昭和60年、守山市生まれ。25歳。
京都産業大学経済学部卒業。平成19年4月、守山市役所に入り、生涯学習課で3年間勤務の後、登別市に派遣。